

(様式 1)

自 己 評 価 表

愛媛県立今治西高等学校全日制

学校番号(14)

No. 1

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
○グローバルな視点で物事を捉え、変化や進展に対応して、持続可能な社会の実現に貢献する生徒を育成します。 ○他者を思いやり、対話と協働によって良好な人間関係を築くことのできる豊かな人間性を育成します。 ○「螢雪精神」の伝統を受け継ぎ、主体的に学び、考え、課題解決に向けて行動できる資質・能力を育成します。	○グローバルな視点を持った人間育成を目指して、基礎・基本を徹底し、幅広い知識と教養が身に付けられるよう、バランスのとれた教育課程を編成しています。 ○産・官・学と連携しながら、多角的な視野に立って、自己や社会の将来のあり方を模索し、探究する学びを進めます。 ○「授業が命」を合言葉に、大学進学を目指し、質・量ともに充実した学習活動を行います。 ○生徒が主体となって企画・運営にあたる学校行事を行います。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
グラデュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合80%以上を目指します。 A : 80%以上 B : 79~60% C : 59~40% D : 39~20% E : 20%未満	A	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、85%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしている。	引き続き、学習習慣の確立、総合的な探究の時間の充実、地域連携の促進などにより、グラデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長を促す。
温かい人間性と豊かな社会性	基本的生活習慣の確立	規則正しい生活をすることで体調管理に努めさせ、年間通して欠席0日の生徒70%以上を目指します。 A : 70%以上 B : 69~50% C : 49~30% D : 29~10% E : 10%未満	C	毎日HR担当が生徒観察をしっかりと行い、変化に気づくように努めた。各学期の面接週間では生徒の様子や悩みを丁寧に聞き取って、生徒に寄り添う指導をした。授業、部活動、各種学校行事が充実し、学校に行きたくなくなる気持ちになる生徒が増えた。数値は昨年度よりかなり向上した。	引き続き生徒に寄り添い、各自が抱える悩みや困りごとをしっかりと聞き取り、学校や教室が安心してすごせる場所とする。家庭との連携を密にして保護者としてしっかりと連携をとり、生徒の健全育成に努める。学年が上がるにつれ進路や勉強に関する不安から不登校傾向が増えることに対して対策が必要である。
	安心・安全な学習環境の確保と心身の健康	自他の生命を尊重する態度を身に付けさせるとともに、交通安全意識の高揚を図り、交通事故ゼロを目指します。	B	HR活動、交通安全教室、交通安全委員からの呼び掛けといった機会を通して交通安全に関する注意喚起を促した。軽微な事故は数件あったが事故後の対応も適切であった。	交通マナーの向上、交通ルールの順守を徹底する。交通安全委員会の活動をさらに活性化させ、引き続き交通事故ゼロを目指す。
		「心の悩み」解消をサポートし、充実感の持てる学校を目指します。	C	諸検査やアンケートの実施、及びその追跡を行い、悩み解消のサポートに取り組んだ。相談室には放課後に担当者が在室し、また毎週金曜日にはスクールカウンセラーが来校して相談に応じた。	諸検査や学校生活アンケートを活用し、SCやSSWとの連携を図り、悩みの早期発見に努める。
		保護者・地域に開かれた学校として、PTA総会出席率40%、保護者懇談会出席率100%を目指します。 PTA総会 A : 40%以上 B : 39~30% C : 29~20% D : 19~10% E : 10%未満 保護者懇談会 A : 100% B : 99~80% C : 79~60% D : 59~40% E : 40%未満	B	PTA総会出席率は昨年同様30%程度であった。平日実施であることと、同日予定していた学校行事(陸上競技大会)が延期になったため、出席者が伸びなかったと考えられる。学期末の保護者懇談会については、どの学年においても90%以上の出席であった。	PTA総会当日に、授業参観・学校行事(陸上競技大会)・担任との保護者懇談を行い、出席率40%以上を目指します。学期末保護者懇談会については、出席率95%以上を目指すため、複数日日程を設定します。
		安心して活動できる学校を維持するための防災教育や環境教育を充実させます。	C	シェイクアウト訓練を2回、防災避難訓練を2回実施した。1回目の避難訓練は運動場の状態が悪く、後日避難経路の確認のみ行った。危機管理マニュアルを見直し、修正途中である。心肺蘇生法実技講習会を実施した。クリーンえひめの一環として、1年生が美化活動を行った。	水害や地震等に備え、防災倉庫の物品管理や学校防災体制の見直し等を引き続き行う。美化委員を通じて防災・環境に関する啓発を考える。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
高い知性と豊かな創造性	学ぶ意欲を高揚させる教科指導の充実 (授業改善への取組み)	I C Tの活用などにより、主体的・対話的で深い学びを積極的に取り入れ、授業満足度100%を目指します。(「授業に関する生徒評価」4.8ポイント以上) A : 4.8p. 以上 B : 4.7～4.6p. C : 4.5～4.4p. D : 4.3～4.2p. E : 4.2p. 未満	A	授業に関する生徒評価は、昨年より昨年より0.1評価が上がり、全体平均4.9ポイントと目標を達成できている。すべての項目で、昨年度と同じが、0.1上がっている。また、DXハイスクール事業により、ICT機器の環境も充実してきている。学校全体で、指導と評価の一体化に向けての研究及び実践を行っている。	DXハイスクール事業により、次年度はさらに充実したICT機器の利用に努めていきたい。情報活用能力の育成、DX人材の育成に取り組んでいきたい。
	自ら学び自ら考える力を育てる家庭学習の充実	確かな学力の定着を図るために、課題の与え方を工夫し、家庭学習1日平均4時間以上を目指します。	B	家庭学習時間は、3年生が通年5.1時間であった。昨年より30分程度学習時間が増加している。1・2年生の家庭学習1日平均は、1年生は、3.7時間、2年生は、3.6時間であり、昨年よりは、増加しているが、まだ対策も必要である。	低学年での継続的な学習習慣の確立と学年が上がることに主体的に学ぶ習慣を身に付けられるように、学校全体の問題として取り組んでいきたい。
	読書活動の推進と思索する態度の育成	全学年による朝の読書、年2回の図書委員会主催の読書会を実施します。図書館だより「ほんばこ」の掲示及び配信を通じて、読書啓発活動の推進を行います。「螢雪ライブラリー」を活用した読書指導の充実を図り、より高いレベルで読書に親しみ思索する態度を育てます。	B	朝の読書の継続に加え、今年度は校内読書会において生徒が企画運営するビブリオバトルを実施し、読書啓発活動を推進した。図書館だより「ほんばこ」の掲示及び配信、「螢雪ライブラリー」の活用呼び掛け、図書委員による本の紹介などを行った。また、上半期はアイヌ関連図書「UPOPOY LIBRARY」の展開を通じて、アイヌ文化への理解を深めた。	図書館だより「ほんばこ」の掲示及び配信の継続、朝読書の推進、「螢雪ライブラリー」の活用呼び掛けなど、読書の魅力の周知と図書館利用増を目指す。図書員会の活動として、現在行っている新刊紹介のポップやおすすめ本コーナーなど、生徒主体の活動の場を増やすとともに、読書会のスタイルを柔軟にし、思索の場を広げる。
強い意志とたくましい体力	特別活動の充実と連帯感の醸成	学校行事を精選し特別活動をより充実したものにして、たくましい心と体を育てます。ボランティア活動への参加を促し、「共生」の心を育てます。	A	本年度も運動会は半日開催にし、体調管理を最優先にしたメリハリの利いたものに工夫ができた。愛媛マラソンのボランティアは、過去最高の434名の生徒が参加し、共生の心がぐいに育まれた。	生徒会を主体とし、より生徒が楽しめる学校行事になるよう生徒の声を拾い上げながら企画運営していく。ボランティアについては、引き続き積極的な参加を促していく。
	部活動の充実と心身の健やかな成長	レベルの高い学習と部活動の両立を目指し、生き生きとした学校生活が送れる環境づくりに努めます。(部活動加入率100%) A : 90%以上 B : 89～80% C : 79～70% D : 69～60% E : 60%未満	A	加入率は90%を超えた。統廃合で本年度で活動を終える部もあるが、残された部活動は運動部文化部ともに複数の部活動が全国大会に出場した。夏は異常に暑い日が続いたが、短い練習時間で工夫して練習することにより、学習との両立も図ることができた。	新たに探究活動を行う部を新設し、生徒の知的好奇心をくすぐり、活動の幅を広げ、学校と地域の活性化に努める。
		「部活動の在り方に関する方針」に基づいて、適切な活動を行います。	A	各部が年間計画・月間計画を立て、計画的に効果的な活動ができた。	引き続き学習とのバランスを重視し、限られた時間・環境の中で、計画的に活動し、成果を上げていく。
	人権・同和教育の充実と豊かな心の育成	人権尊重の意識を高め、差別解消への実践力を高めます。	A	生徒・教職員とも、H R活動や講演会、研修会を計画的に実施できた。また、西高人権デー等の学びの機会を増やすことで、人権尊重の意識が高まった生徒の発言や行動が増えた。	H R活動や講演会等の研修の機会だけでなく、西高人権デーや各教科・科目の学習活動を通じて、人権尊重の意識を高める学びを充実させる。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
夢の実現	進学指導の充実と進路意識の醸成	生徒全員の自己実現・進路実現を目指します。 (国公立大学及び難関私立大学進学率70%以上) A : 70%以上 B : 69～65% C : 64～60% D : 59～55% E : 55%未満 (国公立難関大学+医合格30名以上) A : 30人以上 B : 29～25人 C : 24～20人 D : 19～15人 E : 15人未満	B	国公立大学総合型選抜・学校推薦型選抜では、昨年度は8/22（合格者数/受験者数）、26/59の結果であった。本年度は、総合型選抜が9/21、学校推薦型が23/58の結果であり、合格人数・合格率ともに例年並みである。 一般選抜前期では、現役102名、過年度卒8名、計110名が合格した。総合型・学校推薦型・一般選抜前期において、難関大学と医学部医学科は現役26名、過年度卒5名の併せて31名が合格した。	螢雪大学や出張講義、難関大学合同合宿等の進路行事を通して高い目標を持って学ぶ意義を伝えていく。また、早い時期から学年団と協力し、同じ大学を目指して切磋琢磨できるグループの育成を図る。次年度は新課程2年目となるため、生徒が安心して受験に臨めるように更なる情報収集に努め、担任会等を通して情報を学年団と共有し、生徒との面談や教科指導に活用してもらう。保護者説明会等でも情報発信に努める。
		高大連携を深め、視野を広げ、学びへのモチベーションを高めます。	B	2年生ZESTは、大学と連携して課題研究に取り組み、大学の先生から直接指導・助言を得られた（年間4回）。活動に「学びがあった」「興味・関心」が持てたの項目の正答回答平均値はそれぞれ4.4ポイント、4.2ポイントであった。自己評価平均値は3.9ポイントであった。	各学年のZESTでの課題研究、進路探究が相互に関連し合い、興味・関心分野をより深められるような体制作り、また、各種大学オンライン講義とZESTでの探究活動が有機的に結びつくような体制づくりを図る。
		「西高に入学してよかった」と思う生徒の育成を目指す。（「学校評価（生徒評価）」4.5ポイント以上） A : 4.5p. 以上 B : 4.4～4.0p. C : 3.9～3.5p. D : 3.4～3.0p. E : 3.0p. 未満	A	生徒評価の平均は四捨五入すると4.5pであり、昨年度よりやや高かった。学習や進路選択が本格化する時期であるため、個に応じた学びや進路相談等を研究したい。「生徒の実態に応じた進路相談が行われている」の評価が学年が上がるにつれ高くなっており、担任の面談や教科の個別指導等が適切になされたと考える。	キャリア・パスポートを活用し、生徒に自己の強みや志望分野を振り返る機会を適切に設ける。新課程入試に対応できるように、教職員への情報提供に努め、指導体制の充実を図る。1年生と保護者の「進路室の利用方法、進路情報の収集方法の周知」に関する評価が低いため、HR活動や保護者対象の進路説明会等を活用し、情報提供をする。
安全管理	開かれた学校づくり	ホームページに毎日の生徒の活動や連絡事項を掲載するなどして情報発信に努めます。	B	学校行事等の様子は各部署の協力もあり、ホームページへ掲載することができた。部活動等の様子はまだまだ少ない。学校からの必要な連絡事項はアプリも併用して保護者に配信している。	更新頻度や内容については負担増にならないように適正化を図っていきたい。また、生徒の日々の活動（部活動等の様子）については、引き続き更新への協力をお願いしていきたい。
	安全管理	情報の適切な保管・管理に努め、事務処理の適正化を徹底します。	B	学習系・校務系ともに各課・各教科に応じて分類し、適切に情報を管理している。年3回のセキュリティ研修会を通して、情報管理への意識向上に努めている。	より効率的で、負担のない管理方法になるよう改善を図る。EILS導入に伴う問題に対応できるように、セキュリティ研修会を通じて、教職員の意識向上に努める。
		施設・設備の安全点検、改修を徹底し、事故の防止に努めます。	B	安全点検を4月・8月・1月に実施。保健環境課員や美化委員会による校内点検を随時行った。補修箇所や職員椅子等については、事務課と協力して可能な範囲で迅速に対応した。	老朽化に伴う補修箇所がいろいろあるが、引き続き事務課と協力して随時対応していく。
業務改善	働き方改革の推進	業務の効率化・平準化を図り、勤務時間の適正化によってワーク・ライフ・バランスの取組を推進します。	B	学校閉庁日の設定や、テレワーク、時差出勤の導入により、勤務時間の適正化に向けて改善を図ることができた。	年休やテレワーク、時差出勤の取得を促し、ワーク・ライフ・バランスの充実を呼び掛ける。また、教職員の分掌配置の適正化により、業務の効率化・平準化を図る。
	職場環境の整備	毎月の衛生委員会の実施や職場の整理整頓等により、教職員の心身の健康の保持増進に関する啓発を行います。	B	毎月の衛生委員会実施や、職員室内の整理整頓など、職場環境の改善に努めた。	職場環境改善につながる備品・機器の購入・修繕等について、教職員の声を吸上げ、より働きやすい職場環境の整備に努める。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。